

「今すぐシビレを取る」

脳脊髄液の7ステップメルトテクニック

神経繊維に滞留する脳脊髄液が凝固して、固体のお菓子である「グミ」のような触感になります。

この脳脊髄液の「グミ」は、抹消神経性のシビレや痛みを引き起こします。

固体状のグミを融解して脳脊髄液を液状化します。

解剖生理学

脳脊髄液は、脳の脈絡叢で産生され、脊髄を通過して、四肢の末梢神経にまで流れます。（最近では諸説ありますが）最後は毛細血管とリンパ管に吸収され、静脈とリンパに回収され心臓に戻ります。

病因

脳脊髄液が、末梢神経に沿って流れますが、（現代医療のドクターの方々はそのようにはお考えになられていないようです）末梢神経の出口である脊椎椎間関節靭帯の緊張や末梢神経の走行上にある筋肉や筋膜によって末梢神経が締め付けられたり、四肢が捻じれたりすることにより、神経線維が牽引されたりして脳脊髄液がうまく循環しなくなると、古い脳脊髄液が滞留して、ゲル状の「グミ」になります。

ゲル状の「グミ」が神経走行上にあると、「痛み」「シビレ」「冷感」が発症します。

目的

このテクニックの目的は、対症療法です。

症状のある部位に脳脊髄液のゲル状のグミを見つけて、「メルト（融解）テクニック」を施すと、症状はその場で解消ないしは軽減します。

ただし、脳脊髄液の循環を阻害する原因が解除されないと、再度、脳脊髄液の滞留および凝固が起こります。

それでも、初診の患者さんなど信頼関係の構築が十分でない場合において、症状が解消、軽減されるので、信頼構築に有効なテクニックです。

方法（7ステップ）

1. 症状のある部位を特定します
2. 症状のある部位でブヨブヨしたグミ状の塊を探します。
3. 押さえると神経に沿ってシビレ、違和感を患者さんに確認できます
4. 場所が確認できたら、そのグミを動きやすい方向に軽く押さえます（中立位と言います）
5. 組織を動きやすい方に少しだけ押さえておくと、組織が勝手に動き始めます。その動きを追いかけます。
6. 組織の固有の動きが止まるとグミが温かくなって溶けたら終了
7. 症状の変化を患者さんに確認します（何か所か繰り返す必要を確認します）→信頼構築ができたら終わりにする